１１	海部	愛西市立北河田小学校 津島市立天王中学校	イクラ　ダイスケ マツウラ　ジュンコ 名前　伊　倉　　大　輔 〇松　浦　　潤　子

分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

研究題目

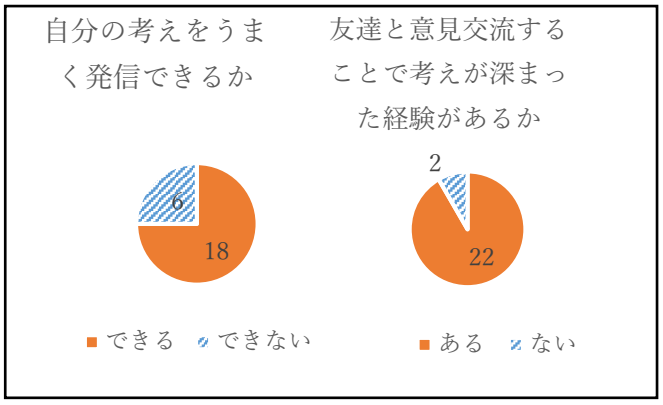
自ら学びに向かい、伝え合う力を高めることができる児童の育成

研究要項

１　はじめに

本校の児童は、新しいもの、未知のものに対して興味関心が高く、自主学習ノートに自分なりに調べ学習をしている児童が多くいる。授業中もあたえられた学習課題に対して前向きに取り組む姿が多く見られる。しかし、その一方で、学習課題に対する自分なりの考え方をもてずに行き詰ってしまったり、自分の意見に自信がもてず、発表することをためらったりする児童もいる。

本研究の前に、６年生の児童 24 名に対してアンケートを行った【資料１】。自分の考えをうまく発信できるかという問いに対して、できると回答した児童が 18 名、できないと回答した児童が６名だった。友達と意見交流をすることで考えが深まった経験があるかという問いに対してあると回答した児童が 22 名、ないと回答した児童が２名だった。この結果から、友達と意見交流の大切さを実感しているが、自分の考えを発信することが苦手と捉えている児童がいることが分かった。そのため、児童が互いの思いを理解し伝え合う力を身に付けることと、友達と意見を共有し、自分の意見への自信をもつことが課題であると考える。



【資料１　アンケート結果】

そこで、研究一年目の今年度は、令和３年１月の中教審で示された「令和の日本型学校教育」を構築するためのキーワードである「個別最適な学び」と「協働的な学び」の内容を踏まえ、研究を進めていきたい。児童一人一人が自分なりの考えをもち、自ら学びに向かう意欲をもてるよう、個別最適な学習を取り入れた学習活動を工夫したい。また、協働的な学習を取り入れた授業展開を工夫することで、児童が他者と考えを交流し、自らの考えを深めることができるようにしたい。こうした取組を通して、国語科における伝え合う力を高めていきたいと考える。

２　目指す児童像

仲間と協働し、互いの考えを深め、伝え合うことができる児童

３　研究の対象

全学年

4　仮説

（１）　児童一人一人の興味関心や特性を生かした個別最適な学習を取り入れることで、伝え合う意欲を高めることができるであろう。

（２）　他者と考えを交流する協働的な学習を取り入れることで、伝え合う力を高めることができるであろう。

（３）　自らの学びを振り返る場を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりして、自分の考えにさらに自信をもつことができるであろう。

5　手だて

（１）　興味関心や特性を生かした個別最適な学習を支える工夫

①　主体的な学習活動を促す課題の提案

②　児童自身が情報を収集するためのＩＣＴの活用

③　個々に異なる活動を行う児童に対しての適切な支援

（２）　協働的な学習を支える工夫

①　個々の考えをもとに、共通の課題を考える場の設定

②　ロイロノートを活用したり、話し合い活動を行ったりすることで、互いの意見を共有し、自分の意見と比較する場の設定

（３）　自らの学びを振り返り、考えを広げ深める工夫

①　単元や授業を通して、自分の考えの変化を振り返る場の設定

6　研究の実際

（１）６年生「笑うから楽しい・時計の時間と心の時間」

①　共通の課題を考える場の工夫（手立て（２）①）

自分の考えを上手く発信する能力を高めるために、単元を貫く課題を「筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう」と設定した。本単元は、「笑うから楽しい」と「時計の時間と心の時間」の２編の説明文で構成されている。第１時では、「笑うから楽しい」を読み、楽しいという心の動きが笑うという体の動きとどのように関わっているかを考え、初め・中・終わりの文章の構成をとらえさせた。第２時で、筆者の主張と事例の関係に着目しながら読み、考えたことを伝え合わせた。笑うから楽しい気持ちが生まれるという筆者の主張と事例との関係を考えることで、事例を主張の根拠としたい筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表するという課題を明確にすることができた。

②　互いの意見を共有し、自分の意見と比較する場の工夫（手立て（２）②）

第３時以降は、「時計の時間と心の時間」を読み、筆者の主張を読み取り、自分の考えを発表することを目標に学習を進めた。第７時では、前時にロイロノートにまとめた筆者の主張に対する自分の考えを３部構成でまとめさせた。それをペア、グループ、全体で交流し、お互いの意見を共有させた【写真１】。また、他の児童の考えを聞いて大事だと思ったところにメモを取るこ

とを伝えた。児童たちは活発に意見交流しており、意見を聞いた児童の考え、経験に共感し、たくさんメモを取っている様子が見られた。その後、自分の意見と他の児童との意見を比べ、共感したことや新たに気付いたことを自分の考えに書き加えることを伝えた【資料２】。書き加えた結果、自分の考えがさらに深まった児童が多かった。また、筆者の主張に関連させることで、教科書の文章の構成についても理解が深まり、単元を貫く課題である筆者の意図をとらえることができた児童が増えた。

【写真１　意見交流の様子】

＜自分の考え＞
　僕は、「時計の時間と心の時間」を読んで、「その人がそのときに行っていることをどう感じているかによって進み方が変わる」という文章に共感しました。
　なぜかというと、僕も野球で、同じような経験をしたことがあるからです。
　野球で苦手な20分間ノックをした時、もう終わらないかなと思い、時計を見たらまだ10分しかたってなかった時がありました。他にも2回くらい時計を見ました。その後、バッティング練習で同じく20分間打ち続けていいと言われ、とても楽しかったけど一瞬で終わったように感じました。
　また、[redacted]さんの「嫌いな授業の時は時間が経つのが遅い」という考えを聞いて、嫌いなことと、苦手なことは関連しているということに気づきました。
　このことから、僕は「その人がその時に行っていることをどう感じているかによって進み方が変わる」という文章に共感しました。

【資料２　児童のロイロノート】

（２）５年生「みんなが使いやすいデザイン」

①　課題の提案の工夫（手立て（１）①）

単元の第１時で、ユニバーサルデザインについての紹介をする前に、実際に目を閉じた状態でシャンプーとリンスを判別する体験を行った。その後、児童からは、牛乳のへこみや点字など身のまわりにあるユニバーサルデザインだと思うものがたくさんあがった。友達の意見を聞いて、もっと調べてみたいという児童も見られ、この単元を学ぶ意欲が高まったと思われる。

②　共通の課題を考える場の工夫（手立て（２）①）

調べたいことが決まった段階でどんなことを調べたいかを集約し、「学校、施設で見られるもの」「文房具」「日用品」などのグループに分け、グループで関連する本から分かることを調べる活動を行った【写真２】。本を読んで情報を探しているときに、他の児童の調べたいことが載っている部分を教えたり、グループ内でのデザインの共通点について話し合ったり、共通の課題をもつグループとして協力している様子が見られた。

【写真２　本から情報を探している様子】

③　ＩＣＴの活用の工夫（手立て（１）②）

タブレット端末を使って、個人の調べたいことについて詳しく調べる活動を行った。はじめに、どのようなことを調べるかの例示として、「身近なＵＤ図鑑」というサイトを紹介した。その後、調べたきっかけ、そのデザインの特徴、どのような人のためかなどを調べ、相手に分かりやすく説明するためにまとめることを伝えた。

イラストや写真を組み合わせたり、手書きで分かりやすく説明を加えたりする児童もいて、相手が分かるように工夫をしていた様子が見られた【資料３】。また、提出箱に提出させ、他の児童の調べたことも見られるようにすると、「こういうことも調べればよかった」「写真、イラストがあるとわかりやすい」など、報告文をさらに良くしようとする意見も聞こえてきて、クラス全体で、分かりやすい報告文を作るポイントを確認することができた。

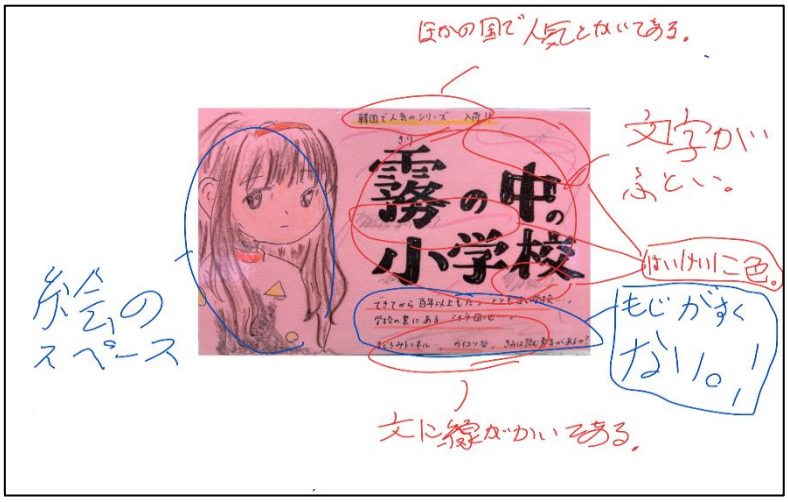
【資料３　児童のロイロノート】

（３）４年生「本のポップや帯を作ろう」

①　共通の課題を考える場の工夫（手立て（２）①）

本のポップを作る際のポイントについて学ぶ活動では、ロイロノートを使って、校内の図書委員が作ったポップについてペアで良い点は赤で、直すべき点は青で意見を出しあった【写真３、資料４】。ポップの細部まで拡大して見たり、指摘する箇所を丸付け、色分けしたりすることで視覚的にわかりやすくなり、活発に話し合いをすることができた。最終的に、ペアで出た意見を、学級全体で交流し、ポップに興味をもってもらえるようにするには、どのような点を工夫すればよいのかについて、小グループや学級全体で考えることができた。

【写真３　意見を出し合っている様子】



【資料４　意見が書き込まれたロイロノート】

②　互いの意見を共有し、自分の意見と比較する場の工夫（手立て（２）②）

学級全体で確認したポップを作るポイントを踏まえ、下書きを行った。その後、小グループで、それぞれが作成した下書きを読み合い、良い点や直すともっとよくなる点について意見交流を行った【写真４】。話し合いを通じて、グループの意見やほかの児童の下書きの良い点を自分の作品に反映させ、より興味を引きつけるポップについて考えを深めることができた。

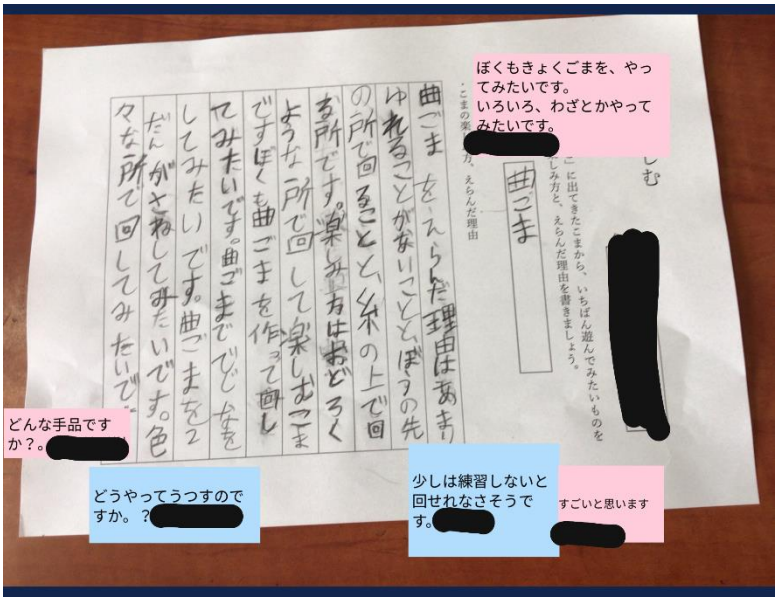
【写真４　意見交流の様子】

（４）３年生「こまを楽しむ」

①　互いの意見を共有し、自分の意見と比較する場の工夫（手立て（２）②）

自分が遊びたいこまについて調べてまとめたプリントを共有ノートで共有し、一人ずつ発表した。児童は、タブレット端末の文章を読みながら発表を聞いた【写真５】。発表が終わると、聞いていた児童は一人ずつ自分の感想と共通点や、相違点があるか意見を言い、共通点は、タブレット上に赤色のデジタル付箋、相違点は青いデジタル付箋に書き込んで、見て分かるように表示をした【資料５】。「初心者でもかんたんにできる」という、自分が気付かなかった視点に気付く児童がいたり、「なぜ初心者でもできると思ったのか」という考えをもつ児童がいたりして、活発に意見交流することができた。

【写真５　他の児童の調べたことを共有ノートで見ている様子】



【資料５　調べたことに対して出た意見】

（５）２年生「あったらいいな、こんなもの」

①　互いの意見を共有し、自分の意見と比較する場の工夫（手立て（２）②）

あったらいいなと思うものについてロイロノートに絵をかき、それについての説明文を考え、発表する活動を行った【写真６】。発表は、あったらいいなと思うものの名前、どんなはたらきをするか、どんなことをしたいかについて説明した。児童は興味津々に聞いており、集中している様子が見られた。児童の振り返りでは、「水の上を走れるブーツがほしいと思いました」「カラフルでかわいいと思いました」など、他の児童の考えの良い点を挙げ、全体で共有した。

【写真６　発表の様子】

（６）１年生「つぼみ」

①　適切な支援の工夫（手立て（１）③）

説明文「つぼみ」の学習では、生活科でアサガオを育てていることもあり、多くの児童が興味深く読み進めることができた。学習後、自分が知っている花や興味をもった花のつぼみについてタブレット端末を使って調べた。タブレット端末の操作の仕方は、６年生に教えてもらい、１年生が調べたいことを調べることができた【写真７】。

【写真７　６年生が使い方を教えている様子】

②　自分の考えの変化を振り返る場の工夫（手立て（３）①）

ロイロノートで調べたつぼみについてのクイズを作成した。問いと答えの話型をもとに、「たまねぎみたいな形のつぼみです。これはなんのつぼみでしょう。」「これは、〇〇のつぼみです。」と紹介し合った。知らない花や見たことのない形のつぼみを紹介し合い、熱心にみんなが作ったクイズに取り組んだ【写真８】。友達の発表を聞いて、「たんぽぽのふしぎがありました。そとは、はなびらがひらくけど、なかはつぼみのままなんて、しらなかったです。」等の新たな発見についての感想が聞かれた。多くの児童が花のつぼみについてますます興味が出てきたようだった。また、たくさんの友達から、正しい問いと答えの言い方のクイズを出してもらったことで、文章の構成の仕方についても理解を深めることができた。

【写真８　クイズの発表会の様子】

７　研究の成果と課題

成果としては、個々の興味関心を生かした学習活動を工夫することで、自らの意見を交流しようとする意欲を高めることができた。ＩＣＴを活用することで、個々の児童が自らの興味関心を生かして、単元の目標、授業のめあてに沿った活動を行うことができた。また、グループや全体での意見の共有や、同じ課題に協力して行う協働的な学習によって、教え合い・学び合いが生まれ、クラス全体の児童の理解が深まった。さらに、他の児童との意見の比較や、自分の考えの変化について自覚することで、一つの事柄を多面的に学習し、理解を深めることができた。

課題としては、児童の興味関心を引く課題の提示に児童の学習したいことをさらに生かすような工夫が必要という点、児童も流れがわかるような協働的な学習の授業スタイルを確立する必要がある点、学習したことが、学力として身に付いているか確かめる必要があるという点が挙げられる。今後も、児童が仲間と協働し、自分の考えを伝え合うことができるように研究を進めていきたい。